
代打の切り札

ロッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

代打の切り札

【NZコード】

N1779D

【作者名】

ロッキー

【あらすじ】

試合を左右する場面で出てくる代打の切り札を描いたお話。

代打の切り札。

決してスタメン落ちの能力の低い選手ではない。

彼もまた選ばれし選手である。

そして試合の終盤、時が満ちたとき、監督に呼ばれる。

監督に耳打ちされる。そしてバッター・ボックスとベンチの中間地点で素振りを二、三度。

九回のツーアウト。試合を終わらせるやの戦士は静かに闘志を燃やす。

勝つて試合を終えるために。

もちろん負ける可能性だってある。

それでもこの一打席に懸ける。結果をだすしかない。

ベンチにいる監督、選手、マネージャーの期待を一身に背負つて。

高々と上がったその打球は深々と左中間を抜けていった。

打ったその戦士は走りながら右手を突き上げていた。

ランナーが一人、二人かえつて同点だ。

「カギーン！」

そしてサヨナラのランナーはすでに三塁をまわっている。

センターからショートヘールが返ってきた。意外と微妙なタイミングだ。

ホームにボールが返ってきてクロスプレーになった。主審は手を高々と上げ、

「アウト！」

落胆する選手たち。

千載一遇のチャンスを逃したその試合の結果は田に見えていた。

しかし選手たちは逆転勝ちをつかむことできなかつたが夢見ることができた。

勝利という大きな夢を。

一人の頼もしい戦士によつて。

打つだけが仕事ではない。ヒラーでも、フォアボールでも、デッドボールでも、どんなに泥臭くても。

次の選手につなぐために。

次の選手に勝利という夢をつなぐために。

だからまたその一人の戦士は立ち上がる。

監督の一聲によつて。

「代打！」

(後書き)

よかつたらメッセージお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1779d/>

代打の切り札

2010年11月13日14時38分発行